

総会議案書



国際ワークキャンプで習字体験

日時 2018 年（平成 30 年）6 月 6 日

場所 富田林市中央公民館

富田林の自然を守る会

総会次第

1. 開会あいさつ

2. 代表あいさつ

3. 来賓あいさつ

4. 議事

第1号議案 2017年度 活動報告

第2号議案 2017年度 会計告

第3号議案 2017年度 会計監査報告

質疑応答・承認

第4号議案 2018年度 活動方針・活動計画案

第5号議案 2018年度 予算案

質疑応答・意見交換・採決

第6号議案 2018年度 役員選出

5. 閉会

富田林の自然を守る会

事務局 富田林市若松町4丁目16-21 田渕武夫宅

TEL:090-8888-3912

e-mail:tabuchi@hb.tp1.jp

第1号議案 2017年度（平成29年度）事業報告

【Ⅰ】活動の概要

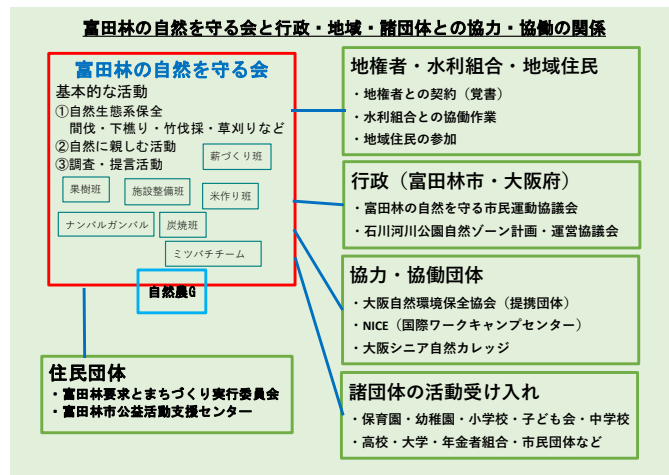
「富田林の自然を守る会（以後 守る会）」は図1のように、地権者、地域住民、行政、その他多くの外部団体と協力・協働しながら活動を進めている。特に富田林市が事務局となって市内の自然に関わる諸団体で構成する「富田林の自然を守る市民運動協議会（以後 協議会）」と一体となって活動を展開している。

1. 基本的な活動内容

(1) 自然生態系保全活動（生物多様性の保全）

①里山保全活動

「雑木林の林床管理（下樵り）」、
「人工林（スギ・ヒノキ林）の管理（間伐・枝打ち）」、「竹林管理（雑木林および人工林への竹の侵入防止および竹林としての管理）」、「草地管理（休耕田・放棄田およびその畦、ため池の土手などの草刈り）」、「水生生物の保護と育成（放棄田を利用した水の生きもの池）」、「作業路（観察路）づくり」など。



②その他の自然保護活動

河岸段丘崖の保全（中野町）など。

(2) 文化的活動（自然に親しむ活動）

「米づくり体験（田植え・稲刈り・稲こぎ）」、「畑づくり」、「自然観察会」、「竹炭焼き」、「シイタケ栽培」、「果樹栽培」、「野草を食べる会」、「里山クラフト」、「どんどこもちつき」、「タケノコ掘り」、「水鉄砲づくり」、「流しソーメン」など。

(3) 調査・提言・要望活動など

「自然観察会（植物、野鳥、昆虫、水生生物）」、「自然環境活用調査（富田林市）」、「モニタリング1000里地調査（植物、チョウ；以後 モニ1000里地調査）」、「南原植生調査」、「錦織公園植生調査（大阪自然環境保全協会（以後 保全協会）の調査に協力）」、「“富田林の自然”誌（協議会）」、「富田林まちづくり研究会（政策提言集）」など。

【Ⅱ】具体的な活動

1. 自然生態系保全活動（生物多様性保全）

(1) 里山保全活動

奥の谷地区は約12haあり、その内里山保全活動を行っているのは雑木林約

0.9ha、人工林約 0.8ha、竹林約 0.4ha、水田（放棄田を含む）約 0.1ha の合計約 2.3ha である。南原地区は約 5ha あり、その内里山保全活動を行っているのは水田（放棄田を含む）約 0.2ha、竹林約 0.1ha の合計約 0.3ha である。奥の谷地区、南原地区を合わせると 17ha 中里山保全活動を行っているのは 2.6ha である。

このうち 2017 年度に作業したのは雑木林約 0.01ha、人工林約 0.05ha、竹林約 0.05ha、水田約 0.3ha（耕作約 0.06ha、草刈りのみ約 0.24ha）であった。

里山保全活動は主として以下の活動の中で実施した。

①協議会主催の活動および守る会主催の活動(表 1)

里山ホリデー（協議会）、里山保全作業と交流会（協議会）、自然観察路の整備（協議会）、里山保全作業（守る会）。

②NPO 法人日本国際ワークキャンプセンター(以後 NICE)との共催事業

(a)国際ワークキャンプ大阪富田林 2017(表 2)

NICE と守る会の共催で 8 月 31 日（木）～9 月 14 日（木）の間、奥の谷で実施した（今回から太子町葉室里山クラブの協力はなくなった）。①人工林の間伐、②竹林整備（中野町）、③竹林整備（奥の谷）、④観察路整備（階段づくり）を実施した。9 月 2 日（土）に歓迎会を行い、富田林市から産業環境部長、みどり環境課長、みどり公園係長および担当職員が来賓として参加、市長からのメッセージが紹介された。キャンパーは外国人 3 人（イタリア 2 人、アメリカ）、日本人 4 人が参加、奥の谷のミカン小屋に宿泊した。ワーク以外にはスライドショー（里山保全と生物多様性、奥の谷の四季）、ディスカッション（各国の環境問題）、クラフトづくり（竹細工など）、着付け、じないまち見学、お花、習字、ホームステイを行った。スタッフを含め地元などから延べ 155 人が参加した。国際ワークキャンプには協議会から 88,065 円の財政支援を受けた。



国際ワークキャンプ歓迎会



国際ワークキャンプ 階段づくり

(b)週末ワークキャンプおよび週末香港国際ワークキャンプ(表 3)。

NICE 富田林チームは毎月 1 回、土日にミカン小屋に宿泊して里山保全活動などを行った。また、2018 年 3 月に香港からの参加者による週末ワークキャンプを実施した。

③他団体の講座の受け入れ(表 4)

(a)公益社団法人大阪自然環境保全協会(以後 保全協会)

- ・自然環境市民大学（地域の保全活動、里山保全活動実習）
- ・自然環境インストラクター養成講座（里山を歩こう；以後 インスト講座）
- ・新里山講座（里山保全と生物多様性）

(b)大阪シニア自然カレッジ講座(春の里山観察とお粥作り、竹林管理)

(2) 中野町の石川河岸段丘の竹林整備（表 5）

2010 年より中野町の河岸段丘崖の約 0.13ha の竹林（新堂交番の背後の竹林）を自然再生と地域の憩いの場所として整備を行っている。2016 年度に引き続き、竹の伐採、チップパーによる竹のチップ化、東側法面および西側平坦地の草刈りなどを実施した。作業は協議会主催以外にも守る会独自でも実施した。

2. 文化的活動（自然に親しみ、自然への理解を深める活動；（表 6）

(1) 米作り体験（協議会；表 6）

奥の谷の水田（約 300m²）を借地し、米作りを実施。協議会の行事として「田植え」、「稲刈り」、「稲こぎ（脱穀）」を行った。米作り全体の作業（水田の耕起、水の管理、畦の草刈りなど）は自然を守る会が行った。

(2) 春の野草を食べる会（協議会；表 6）

奥の谷の野草を積んで調理して食べた。メニューはヨモギ団、メナゴ飯、野草のおひたし（セリ、ヨメナ、ツリガネニンジンなど）、ノビルのぬた、タケノコの木芽和え、各種野草の天ぷらなどであった。この行事は毎年大変好評で、老若男女 71 人が参加。にぎやかで楽しい催しであった。毎年 4 月 29 日（昭和の日）に行っている。



野草を食べる会 野草探し

(3) 里山クラフト（蔓細工を中心に；協議会；表 6）

午前中は山に入りフジ、アケビ、アオツヅラフジなどの蔓を採取し、午後はそれを用いて籠やリース作りを行った。

(4) どんとともちつき（協議会；表 6）

「どんと」は正月のしめ飾りなどを燃やし神を天に送る伝統行事である。最初に書初めを行い、続いてどんと焼きを行った。そのあともちつきを行った。きな粉もち、あんこ餅、雑煮などを作り、みんなで楽しく食べた。この行事も人気の行事で 117 人の参加で楽しい催しとなった。

(5) その他

流しそうめん&水鉄砲づくり（協議会；表 5）

中野町の竹林整備の一環として子ども中心の竹を使用する行事を取り入れることにし、流しそうめんと水鉄砲づくりを実施した。

シイタケ栽培

コナラの大径木 3 本を伐採、椎茸の楕木とした。栽培した椎茸は様々の行事での食事に利用した。植菌は 3 月の里山ホリデーで実施した（表 1）。

(7) 果樹栽培

ミカン小屋の前の果樹の丘や西尾氏のミカン園で草刈りを中心に管理している。主として自然を守る会が草刈日を設けて実施した。果樹の丘にはカキ、スモモ、クリ、イチジク、クワ、グミ、オリーブ、ビワなどを植栽している。果樹の丘は里山の草地性植物の復活を目指して草原としての管理が目的の一つとなっている。

(8) 竹炭焼き

2015 年度に市民大学修了生を中心に炭焼班が作られ、竹炭焼きを実施した。竹炭は主として NICE の宿泊行事における囲炉裏などに使用した (P. 7 参照)。

(9) ニホンミツバチの飼育

数年前から奥の谷において山本氏を中心にニホンミツバチの飼育がおこなわれていたが、2018 年度にミツバチチームが結成された (P. 8 参照)。

(10) 南原における畑・水田・果樹づくり

数年前から保全協会のインスト講座修了者を中心にグループ「ナンバルガンバル」が結成され、畑・水田・栗の管理などが行われている (P. 9 参照)

3. 調査・提言・要望活動など

(1) 自然観察 (協議会 ; 表 7)

①植物観察会

これまで奥の谷での観察会であったが、2017 年 9 月の観察会は金胎寺山で実施した。

②昆虫観察会

午後 3 時に集合し、昼間はトンボやチョウを捕りながら山野を歩き、バナナトラップを樹木などに仕掛けた。その後嶽山の昆虫標本 (自然を守る会所蔵) を観察した。夕食後山裾に設置したライトトラップを点灯した。日没後、樹液に來ている昆虫やバナナトラップに來ている昆虫を観察しながら真っ暗な山中を懐中電灯を頼りに歩いた。そのあとライトトラップに飛来した昆虫を観察した。



③野鳥観察会

上村賢氏 (日本野鳥の会) を講師に錦織公園で実施した。

④水の生き物観察会

奥の谷の水の生き物池において、子どもたちを中心に水の生き物捕りを実施した。

(2) 自然環境保全活用調査 (協議会)

富田林市が里山倶楽部に委託した調査に、協議会が協力して調査に参加した。主として文献調査による富田林の昆虫リストの作成であったが、補足調査として東板持地区で植物および昆虫の調査を実施した (表 7)。活用調査その 16 として次のような内容の報告書が作成された。

1. 生物多様性保全のための基礎調査

(1) 富田林の昆虫についての文献調査 (富田林市の昆虫目録)

(2) 生物多様性保全の取組みについて [①調査結果のまとめ、②富田林の昆虫について生物多様性保全の視点からの提案]

2. 補足現地調査〔東板持地区（保全配慮地区）〕

(3) モニ 1000 里地調査(守る会;表 7)

モニ 1000 里地調査は環境省が日本自然保護協会に委託して実施している調査で、守る会は植物およびチョウの調査を奥の谷で行なっている。調査担当者は主として市民大学 OB の人たちである。

(4) 南原（みなんばら）の植生調査(表 7)

守る会は南原でルートセンサスおよび畦に設置したコドラートの植生調査を実施している。調査担当者は主として市民大学 OB の人たちである。

(5) 錦織公園の植生調査(保全協会；表 7)

守る会は保全協会の都市公園自然調査研究会が行なう錦織公園での調査に協力した。ここでの調査はルートセンサスによる植生調査を中心に昆虫、野鳥についても調査した。

(6) その他 調査への協力

このほか、守る会は大阪府立大学学院生のホタル調査およびフクロウ調査、京都大学学院生のアカガエル調査に協力した。

(7) まちづくりプラン 2017(政策提言書)への寄稿

多くの市民団体が参加する「要求とまちづくり富田林実行委員会」、「富田林市職員労働組合」、「大阪自治体問題研究所」で構成する「富田林まちづくり研究会」が発行した政策提言書「富田林・定住の都市へ」に「生物多様性を保全し、自然豊かなまちづくりを」と題して寄稿した。



(8) 市への要望

「要求とまちづくり富田林実行委員会」に加入し、この委員会が市に提出した要望書の自然環境にかかわる項目（「農業と自然・住環境を守り歴史と自然文化息づくまち富田林を」の項）の要望をまとめた。またこの要望書に基づく市議会議長あて要望書名にも取り組んだ。



(9) 「富田林の自然」誌の発行(協議会)

協議会は「富田林の自然 No. 16」の発行準備中。

(10) 石川河川公園自然ゾーン計画運営協議会(石川協議会)

石川協議会に守る会から委員 1 名が選任されている。運営委員会が 2017 年 7 月 19 日及び 2018 年 1 月 25 日に開催された。「ミゾコージュ自生地の情報について」、「希少生物保護マニュアルについて」、「喜志大橋耐震補強工事のオギ復旧について」などが議論された。

【Ⅲ】2017 年度の活動のまとめ

1. 各種活動への参加人数まとめ(表 8)

協議会と守る会の事業の多くは一体的に取り組まれており、それらの活動には 2017 年度の 1 年間で延べ 2316 人（大人 2103 人、子ども 213 人）の参加があった。

2. 2017 年度で特徴的だったこと

- (1) 男性用トイレが立派に改修されてた。
- (2) 古墳への観察路の階段が再生され、その周辺の間伐および林床整備が行なわれた。
(フユイチゴの坂：市民大学 15 期生 1 班)
- (3) みかん小屋の前の人工林の観察路に見事な土止めができた。
(水分りの径（みくまりのこみち）
：市民大学 15 期生 2 班)
- (4) (3) の観察路のさらに奥に右（北方向）に登る観察路を新設した。
(嶽の会を中心とした協議会の観察路整備行事)
- (5) 中野町竹林内にチップー収納用の小屋を設置した。
- (6) 中野町竹林の民家近くおよび法面の大径木を（地権者が）伐採した。
- (7) ミツバチ（ニホンミツバチ）班が立ちあがった。
- (8) 奥の谷のみかん小屋前の人工林の南西の法面が大きく崩壊した。
- (9) ナラ枯れが奥の谷全体に広がった。



フユイチゴの坂



男子用簡易トイレ



チップー収納小屋



水分りの径



ミツバチ巣箱づくり

2017 年度 炭焼き班の活動報告

2014 年 12 月に設置された炭焼き窯は、運用から 3 年目に入りほぼ 1 か月に 1 回の活動を継続している。

I. 活動内容

1. 窯内の温度を管理しながら送風機により熱風の強制循環を行ったことで、当初、約 18 時間かかっていた火入れ作業時間を。約 9 時間に短縮して行っている。
2. 出来上がった竹炭を販売ルートに乗せる検討を行ったが、量が不足し冬季のみかん小屋の暖房用として消費される分しか供給出来なかった。
3. 松ぼっくりなどを入れた空き缶を窯の中に入れて、花炭の製作を行った。
4. 火入れ作業が短縮されたことにより、竹酢液の回収が見込めなくなった。
5. 窯の木枠が過去一部焼損していたが、年度最終の火入れ時に前面が崩れるまでに至った。
(次年度当初より土を除去し修理する計画)

II. 活動の実施経過

2017 年 4 月 26 日 (水) 10:00~16:00 炭出し作業と次回の準備作業 参加 3 名
5 月 20 日 (土) 7:00~16:00 炭焼き 参加 3 名
6 月 8 日 (木) 10:00~16:00 炭出し作業と次回の準備作業 参加 7 名
9 月 23 日 (土) 7:00~16:00 炭焼き 参加 3 名
10 月 21 日 (土) 10:00~16:00 炭出し作業と次回の準備作業 参加 3 名
11 月 22 日 (水) 7:00~16:00 炭焼き
12 月 16 日 (土) 10:00~16:00 炭出し作業と次回の準備作業 参加 6 名
2018 年 1 月 21 日 (日) 7:00~16:00 炭焼き 参加 9 名
2 月 17 日 (土) 10:00~16:00 炭出し作業と次回の準備作業 参加 5 名
3 月 10 日 (土) 7:00~16:00 炭焼き 参加 6 名



上/火入れすぐの状態 下/炭焼き風景

上/販売用に箱詰め 下/製作した花炭

ミツバチチーム活動報告

作成：山本

昨年、奥の谷周辺で養蜂をしたいとの希望が複数あったため、本会の中にミツバチチームを作ることにし、10 月 21 日に準備会議を開いて、活動の目的や進め方を下記のように決め、活動を始めた。現在、メンバーは奥の谷 7 名、南原 3 名、竜泉里山 1 名(代表者)でリーダーは山本である。

<活動目的>

- ・養蜂文化を通しての人と自然のかかわりや里山の意義の理解。
- ・里山の生物多様性向上。
- ・養蜂によるミツバチ生態系・ミツバチ-植物間生態系理解・普及。

<活動の進め方>

- ・山本が指導し、奥の谷、南原、竜泉里山の 3 ヶ所で連携してニホンミツバチの養蜂を行う。ただし、竜泉里山は 1~2 年後には独立して活動する予定。
- ・チームでは、巣箱材の準備、巣箱作り・設置、ミツバチ群の管理、蜜源植物調査・成育、採蜜会、蜜蝋精製会、観察会などを企画し実施する。

<2017 年度の活動>

- ・1 月 20 日（土）：竜泉里山の杉材と中野の雑木を製材所に持って行き、板材にした。
- ・2 月 10 日、17 日、24 日（土）：板材を加工して巣箱 6 セットを製作（於みかん小屋）。
- ・3 月 23 日（金）：山本が手持ちの巣板を使い、巣箱に塗る蜜蝋を精製（於みかん小屋）。
- ・3 月 31 日(土):奥の谷に 2 個、南原に 2 個、竜泉里山 2 個の巣箱を設置。

その後、ニホンミツバチに誘因効果のあるキンリョウヘン(東洋蘭の一種)を設置して、分蜂群の入居を待つが、奥の谷、南原では入らず、山本が河内長野で捕獲した分蜂群をそれぞれの巣箱に入れた。なお、竜泉里山では 1 巣箱に入居、他に別途入手した古い巣箱にも入居した。

- ・現在、奥の谷のクリの木の下に 1 群、ツツジの丘に 1 群、南原に 1 群（他 1 群は逃居）、竜泉里山に 2 群がおり、これから群の観察や管理を行っていく（これ以外に山本が実験観察用に 3 群設置している）。順調に群が成長すれば、採蜜も計画したい。しかし、例年 7 月に逃居しており、蜜源植物の成育や暑さ対策が必要である。またミツバチの生態説明会や観察会なども計画したいと考えている。



蜜蝋の精製状況(左図)と完成した蜜蝋(右図)



南原に設置した巣箱(左図)と巣箱内の蜂群(右図)

チームナンバルガンバル活動報告（2017年4月～2018年3月）

目的

ネイチャー大阪の講座（インストラクター養成講座）修了生を中心に、出来るだけ気軽に自然体験を行える場所を作ることとを目的としています。

なお2018年3月より、同じくネイチャー大阪のプロジェクトとして「カレーライスを本当に手作りするプロジェクト」をスタートし、より多くの一般の参加者を募集していく活動も同時に始めました。

プロジェクトの目的

- ・食べ物が生き物からできているということを思い出すこと。
- ・料理の素材がどのように育ち、収穫され、流通し、販売されているかというプロセスを知ること。
- ・そのプロセスを知識としてではなく、体験を通じてわかる、ということ。

野菜やお米・お肉などを手作りする体験を通じて、普段の生活では感じにくい、それらを育てるためにはどのような環境が必要なのか、現状はどうなっているのか、考えるきっかけを作る。

回	日にち	参加者数	作業内容
1	4月2日	5	畝づくり・田植えのための整地
2	4月29日	8	マコモ移植作業・大根収穫など（ミカン小屋宿泊）
3	4月30日	6	畑手入れ・草刈りなど
4	5月7日	10	田んぼ開墾・溝掃除など
5	5月27日	4	畑手入れ・草刈りなど
6	6月17日	10	草刈り・ため池の水ポンプアップなど
7	6月24日	5	草刈り・ため池の水ポンプアップ・田植えなど
8	7月1日	4	草刈り・畑の手入れなど
9	7月24日	5	草刈り・野菜の収穫など
10	8月12日	8	草刈り・野菜の収穫など
11	9月2日	2	草刈り・畑の手入れなど
12	9月9日	6	草刈り・種植え（コカブ・大根・白菜・小松菜）など
13	10月6日	8	稲刈り・種植え（パクチー・ソバ）など
14	10月28日	4	土砂崩れ確認作業
15	11月4日	5	脱穀・大根畝づくり
16	11月23日	3	草刈り・大根畝づくり
17	12月10日	4	お米の粳摺り・コカブ間引き
18	12月23日	4	田んぼ開墾など
19	1月14日	3	田んぼ開墾など
20	2月3日	2	田んぼ開墾など
21	2月17日	3	田んぼ開墾など
22	3月4日	2	ジャガイモ植え付け（カレープロジェクト）
23	3月11日	4	ジャガイモ畑排水作業（カレープロジェクト）、田んぼ手入れ（ナンバル）
24	3月25日	12	畝たて・ターメリック/コリアンダー/クミン植え付け(カレープロジェクト) 田んぼ手入れ（ナンバル）
計		127	



表1 里山保全活動(いずれも10:00～16:00頃)

主催	行事名	回	開催日時				参加人数			作業内容	備考	
			年	月	日	曜	大人	子ども	計			
協議会	里山ホリデー	1	2017	4	2	日	5	0	5	・イノシシ柵の整備		
		2		5	21	日	26	0	26	・溜池周辺の草刈	内NICE8人;他に水利組合5人、初芝校2人、総計26人	
		3		7	23	日	25	1	26	・中野町伐倒木の運搬 ・水田の草の処理 ・流しソーメン(昼食)	内NICE16人	
		4	2018	2	11	日	15	0	15	・伐採木の処理	内NICE8人	
		5		3	11	日	18	2	20	・椎茸の植菌	他に香港ワークキャンプ	
	里山作業と交流会	1	2017	12	17	日	25	2	27	・コナラの倒木処理 ・イノシシ柵作り ・間伐材運搬 ・交流会	内NICE7人	
	観察路整備	1	2018	2	4	日	10	2	12	・観察路造成(内田林)	嶽の会が主体で取り組む	
参加者数計							124	7	131			
守る会	里山保全作業	1	2017	4	7		—	—	—	雨天中止		
		2		5	5	金	14	0	14	・タケノコ掘り・畑作業・	内シニアカレッジ13人	
		3		6	2	金	14	0	14	・畑作業・竹の伐採	内シニアカレッジ13人	
		4		7	7	金	12	0	12	・草刈り・畑作業	内シニアカレッジ11人	
		5		8	4	金	11	0	11	・畑作業・テント下の整備	内シニアカレッジ7人	
		6		9	1	金	—	—	—	国際ワークキャンプのため中止		
		7		10	6	金	—	—	—	雨天中止		
		8		11	3	金	—	—	—	奥の谷災害復旧工事のため中止		
		9		12	1	金	11	0	11	・イノシシ柵・畑作業	内シニアカレッジ10人	
		10	2018	1	12	金	15	0	15	・伐採竹運搬	内シニアカレッジ14人	
		11		2	2	金	10	0	10	・薪づくり・畑作業	内シニアカレッジ9人	
		12		3	2	金	14	0	14	・畑作業・薪づくり	内シニアカレッジ11人	
		参加人数計							101	0	101	
	参加人数総計							225	7	232		

表2. 国際ワークキャンプ大阪富田林2017

月日	曜日	午前	午後	夜	参加者数			
					キャンパー	地元	子供	計
8月31日	木		13:00滝谷不動駅集合、小屋生活に関するオリエンテーションなど		7	8	0	15
9月1日	金	プレゼン「生物多様性と里山保全」&「奥の谷の四季」	ワークのオリエンテーション 作業のデモンストレーション		7	8	0	15
2	土	ワーク①(9:00～12:30)		歓迎会(17:00～19:00)	7	35	7	49
3	日	ワーク①(9:00～12:30)	習字・お茶		7	13	0	20
4	月	ワーク①(9:00～12:30)		ホームステイ(16時～)	7	7	0	14
5	火	フリーデイ		21時に滝谷不動駅に集合	7	2	0	9
6	水	ワーク②(9:00～12:30)	(流しそうめん昼食)		7	4	0	11
7	木	ワーク②(9:00～12:30)	着物着付け・寺内町見学		7	11	0	18
8	金	フリーデイ			7	2	0	9
9	土	ワーク③(9:00～12:30)	ディスカッション(14:00～16:00)		7	12	0	19
10	日	ワーク③(9:00～12:30)	お花	ホームステイ(16時～)	7	9	0	16
11	月	フリーデイ		21時に滝谷不動駅に集合	7	2	0	9
12	火	クラブト			7	6	0	13
13	水	ワーク④(9:00～12:30)	さようなら会準備	さようなら会(18:00～20:00; キャンパー主催)	7	16	3	26
14	木	片付け、総括	昼食後解散		7	10	0	17
参加者数合計					105	145	10	260

ワーク①: 人工林の間伐、ワーク②: 竹林整備(中野町)、ワーク③: 竹林整備(奥の谷)、ワーク④: 観察路整備(階段づくり)

表3. NICEとの共催事業

回	行事名	開催日時				参加人数			作業内容
		年	月	日	曜	NICE	地元	計	
1	週末ワークキャンプ	2017	4	8	土	17	6	23	・里山散策・星空音楽会準備・星空音楽会
9				日	9	5	14	・植物観察(協議会の観察会は雨天中止)・果樹の丘の草刈り・ウッドデッキの塗装	
2			5	20	土		8	8	・里山見学・果樹の丘草刈り・水田の施肥
21				日	8	18	26	・里山ホリデー(溜池の草刈り)に合流	
3			6	3	土	4	5	9	・植物観察会に合流
4				日	4	12	16	・金剛コロニー梅園草刈り・ウメの収穫	
4			7	22	土	6	4	10	・里山見学・田の草取り
23				日	16	10	26	・中野町伐採木の搬出・田の草取り・流しソーメン	
5			10	7	土				
8				日	12	8	20	・植物観察会に合流	
6			11	4	土	8	25	33	・稲こぎ(協議会行事)に合流
5				日	14	4	18		
7			12	16	土	6	9	15	・石垣さんの畑の畦の補修・イノシシ柵の設置・テント下の排水溝の造成
17				日	7	20	27	石垣畑の畦補修・間伐材搬出・皮むき・里山交流会に合流	
8			2018	1	13	土	21	10	31
14		日			27	90	117	・どんどともちつきに合流	
9	2	10		土	8		8	・里山見学	
11		日	8	7	15	・里山ホリデーに合流			
	参加人数合計					175	241	416	
1	週末香港国際ワークキャンプ	2018	3	9	金	20	3	23	・午後到着・オリエンテーション
10				土	20	5	25	・里山見学・間伐材再搬出	
11				日	20	7	27	・間伐材搬出・人工林間伐	
12				月	20	3	23	・片付け・解散	
	参加人数合計					80	18	98	
参加人数総計						255	259	514	

表4. 他団体から受け入れて実施した講座

主催団体	講座名	回	開催日時				参加人数			内容	備考
			年	月	日	曜	大人	守る会	計		
大阪自然環境保全協会	自然環境市民大学	1	2017	11	22	水	14	1	15	講義(里山保全と生物多様性)	講師:伊藤孝美
		2		12	19	土	14	1	15	講義・実習(土壌調査)	
		3	2018	1	10	水	14	1	15	実習地見学・実習内容決定	作業
		4		1	24	水	14	1	15	実習	
		5		1	31	水	14	1	15	・1班:フユイチゴの坂	
		6		2	7	水	14	1	15	・2班:水分の道	
		7		2	21	水	14	1	15		
		8		2	28	水	14	1	15	実習成果の発表	
	自然観察インストラクター養成講座	1	2017	5	14	日	20	3	23	・講義・里山散策・竹の伐採実習	
	新里山講座	1	2017	5	13	土	10	1	11	講義・実習	
		2	2018	3	4	日	10	1	11	里山実地説明・間伐体験	
大阪シニア自然カレッジ	12期生講座	1	2018	1	17	水	32	1	33	春の里山観察とお粥作り、竹林管理	
参加者合計							132	11	143		

表5. 中野町竹林整備 (すべて9:30)

表3-1 下野市竹材整備（平成25年度）									
主催	回	開催日				参加人数			作業内容
		年	月	日	曜	大人	子ども	計	
協議会	1	2017	4	23	日	14	2	16	・タケノコ掘り・竹の伐採
	2		5	28	日	5	0	5	・チップパー作業・伐採木処理
	3		6	25	日	—	—	—	雨天中止
	4		7	1	土	5	0	5	雨天中止・有志で作業
	5		8	6	日	14	12	26	・水鉄砲・流しソーメン
	6		9	24	日	7	0	7	・チップパー作業・竹の伐採・草刈り
	7		10	7	土	5	0	5	・竹の伐採
	8		11	12	日	5	0	5	
	9		12	3	日	7	0	7	・竹の伐採・竹の運搬
	10	2018	1	7	日	5	0	5	・竹の伐採
	11		2	3	土	7	0	7	・竹の伐採・チップパー作業
	12		3	25	日	8	0	8	・竹の伐採・チップパー作業
			参加者数計				82	14	96
守る会	1	2017	11	25	土	9	0	9	伐採木の玉切り、運搬・伐採竹の整理・阪大学生指導
	2	2018	2	25	日	9	0	9	チップパー・伐採木の運搬
	3		3	3	土	8	0	8	チップパー・竹伐採・伐採木の運搬
			参加者数数計				26	0	26
参加者数総計						108	14	122	

表6. 文化的活動(協議会)

活動	回	行事名	開催日時				参加人数			内容	備考
			年	月	日	曜	大人	子ども	計		
米作り体験	1	田植え	2017	6	10	土	33	19	52	手植え	
	2	稲刈り		10	14	土	18	3	21	ノコギリ鎌、はぜかけ	
	3	稲こぎ		11	4	土	23	10	33	足踏み脱穀機、篩、唐箕	内NICE8人
	参加者数計						74	32	106		
その他の活動	1	春の野草を食べる会	2017	4	29	土	54	17	71	ヨモギ団子、ヨメナご飯、タケノコご飯、セリのおひたし、各種てんぷらなど	
	2	里山クラフト		11	23	木	10	3	13	蔓植物の採取、つる細工	
	3	どんどこもちつき	2018	1	14	日	89	28	117	書き初め、どんどこ焼、もちつき	内NICE27人、 一步の会20人
	参加者数計						153	48	201		
参加者数総計							227	80	307		

表7 自然観察・調査活動

主催	行事名	回	開催日時				参加人数			観察した生き物	備考	
			年	月	日	曜	大人	子ども	計			
協議会	植物会観察	1	2017	4	9	日	—	—	—	—	雨天中止	
		2		6	3	土	6	0	6	奥の谷		
		3		9	23	土	10	0	10	草本(開花):56種,木本:32種	金胎寺山	
		4		10	8	日	13	3	16	草本(開花):53種	奥の谷	
	水の生き物観察会	1	2017	6	11	日	15	25	40	奥の谷		
	昆虫観察会	1	2017	7	15	土	23	24	47	・ネットイング ・ライトトラップ ・バナナトラップ	奥の谷	
	野鳥観察会	1	2018	2	18	日	4	0	4	錦織公園		
	自然環境活用調査	1	2017	7	3		3	0	3	・昆虫・植物	東板持	
参加人数計							74	52	126			
守る会	モニ1000 チョウ	1	2017	4	14	金	5	0	5	ルートセンサス法		
		2		5	12	金	6	0	6			
		3		6	23	金	4	0	4			
		4		7	14	金	9	0	9			
		5		8	11	金	3	0	3			
		6		9	8	金	4	0	4			
		7		10	18	金	4	0	4			
		8		11	10	金	4	0	4			
		9	2018	3	23	金	5	0	5			
	モニ1000 植物	1	2017	4	28	金	3	0	3			
		11		5	26	金	10	0	10			
		12		6	23	金	3	0	3			
		13		7	28	金	5	0	5			
		14		8	25	金	4	0	4			
		15		9	22	金	3	0	3			
		16		10	13	金	3	0	3			
		17		11	24	金	4	0	4			
		18		12	22	金	4	0	4			
		19	2018	1	26	金	4	0	4			
		20		2	23	金	4	0	4			
		21		3	9	金	4	0	4			
	南原 植生調査	22	2017	4	21	金	3	0	3		ルートセンサス法	
		23		5	24	水	3	0	3		・コドラート法	
参加人数計							101	0	101			
保全協会	錦織公園 植生調査	24	2017	7	26	水	5	0	5	ルートセンサス法	都市公園 自然調査 研究会	
		25		9	27	水	4	0	4			
	参加人数計							9	0	9		
参加人数総計							184	52	236			

表8 各種活動への参加人数まとめ

	行 事 名	参加者数		
		大人	子ども	合計
協 議 会 活 動	里山保全活動 7回	124	7	131
	米作り体験 3回	74	32	106
	文化行事 3回	153	48	201
	自然観察会・調査 8回	74	52	126
	中野町竹林整備 12回	82	14	96
守 る 会 及 び 他 団 体 と の 共 催 ・ 協 力 ・ 受 け 入 れ 活 動	中野町竹林整備 3回	26	0	26
	里山保全活動 11回	139	0	139
	竹炭焼 10回	38	0	38
	草地管理 5回	48	0	48
	畑づくり（ナンバルガンバル） 24回	127	0	127
	ニホンミツバチの飼育（約3回）参加者数は概数	15	0	15
	調査（モニ1000、南原、錦織公園）25回	110	0	110
	国際ワークキャンプ（NICE） 1回（15日）	250	10	260
	国際週末ワークキャンプ（NICE） 1回（4日）	98	0	98
	週末ワークキャンプなど（NICE） 9回（18日）	416	0	416
	受け入れた講座 4講座（12日）	143	0	143
	他団体受け入れ行事など 16団体（16日）	186	50	236
	参加者数合計	2,103	213	2,316

第2号議案 2017年度 会計決算報告

1.一般会計

収入の部

項目	予算額(a)	決算額(b)	増減(a-b)	備考
繰越金	50,943	50,943	0	前年度からの繰越金
会費	90,000	97,000	-7,000	
行事参加費	6,000	0	6,000	
寄付	6,000	7,800	-1,800	竹炭・薪・木材・もち米
雑収入	15,000	36,083	-21,083	飲料 金属スクラップ 利息
自然保護特別会計より	0	75,505	-75,505	不足分補填
合計	167,943	267,331	-99,388	

支出の部

項目	予算額(a)	決算額(b)	増減(a-b)	備考
行事費	30,000	43,751	-13,751	飲料・各種お茶・精米代など
通信郵送費	10,000	8,856	1,144	総会案内等郵送費
消耗品費	10,000	15,289	-5,289	ガソリン、薪割楔、コンセント
ワークキャンプ費	60,000	119,435	-59,435	
協賛金及び寄付	1,000	15,000	-14,000	「富田林・定住の都市へ」30冊
予備費	56,943	65,000	-8,057	修理お礼、講習謝礼など
合計	167,943	267,331	-99,388	

* 次年度への繰り越し = 267,331-267,331 = 0 円

2.自然保護特別会計

収入の部

項目	金額	備考
繰越金	1,430,558	
大阪自然環境保全協会・各種行事受け入れ謝礼金・講演等講師謝礼金	182,400	
合計	1,612,958	

支出の部

項目	金額	備考
一般会計へ	75,505	
富田林の自然を守る市民運動協議会へ	445,288	
合計	520,793	

* 次年度への繰り越し = 1,612,958-520,793 = 1,092,165 円

3. 国際ワークキャンプ特別会計

収入の部

項 目	予算額	決算額	備 考
富田林の自然を守る市民運動協議会より	100,000	88,065	
自然を守る会一般会計より	60,000	119,435	
一般参加費	30,000	22,700	
寄付金等	10,000	9,772	
合 計	200,000	239,972	

支出の部

項 目	予算額	決算額	備 考
通信印刷費	30,000	21,000	・通信・印刷費(NICE;3,000×7)
キャンプ運営費	50,000	56,800	キャンパー食費など
燃料費	10,000	21,790	発電機および軽トラック用ガソリン
消耗品費	40,000	16,875	救急用具・薬品類、クリーニング代など
施設整備費	0	20,000	クーラーボックス
保険費	10,000	8,400	ボランティア保険
入浴費	30,000	25,000	キャンパーの入浴代
歓迎会費	30,000	35,455	食材など
予備費	0	34,652	
合計	200,000	239,972	

第 3 号議案 2017 年度会計監査報告

富田林の自然を守る会 2017 年度一般会計、国際ワークキャンプ特別会計、自然保護特別会計について歳入歳出決算書、証拠書類および帳簿を審査したところ、収支とも適正であることを認めます。

2018 年 5 月 24 日

富田林の自然を守る会会計監査
市 川 悦 久



第4号議案 2018年度 活動計画

I. 活動の方針

自然生態系の保全・生物多様性の保全を目標に富田林市内全域の自然環境保全を視野に活動する。下に示すように「自然生態系・生物多様性保全に係る直接的な活動」、「自然に関わる文化的活動(自然とふれあう活動)」、「調査・提言活動」の3つの活動を統一のとらえて活動する。また、自然豊かなまちづくりをめざし、行政や多くの市民や市民団体とも協力し、協働して活動する。

1. 自然環境保全活動(生態系保全・生物多様性保全)

(1) 里山保全活動

- ①雑木林の林床管理(下樵りを中心に)
- ②人工林(スギ・ヒノキ林)の管理(間伐、枝打ち)、
- ③竹林管理(雑木林および人工林へ侵入したタケの除伐、竹林の管理)
- ④作業路(観察路)づくり
- ⑤草地管理(休耕田とその畦、ため池の土手などの草刈り)
- ⑥水生生物の保護と育成(水の生きもの池の管理)

(2) 河岸段丘崖の竹林整備(中野町)

2. 文化的活動(自然とふれあう活動)

- ①竹炭焼き ②シイタケ栽培 ③果樹栽培 ④日本ミツバチの飼育 ⑤畑づくり
- ⑥野草を食べる会 ⑦里山クラフト ⑧どんどこもちつき ⑨米づくり体験

3. 自然観察・調査・提言活動

- ①自然観察(植物・昆虫、野鳥、水生生物)
- ②自然環境保全活用調査(富田林市の調査に協力)
- ③モニタリング1000里地調査(植物、チョウ)
- ④その他の調査(南原、錦織公園など)
- ⑤「富田林の自然」誌の発行(富田林の自然を守る市民運動協議会に協力)
- ④生物多様性保全に関する取り組み

4. 班活動の充実

数年来上記のそれぞれの活動が活動班として行われることが多くなってきている。

2018年度は以下の班をもとに班活動を軌道に乗せるように努める。

炭焼き班、チームナンバルガンバル、ミツバチチーム、コメづくり班、薪づくり班、中野町竹林整備班、果樹栽培班、施設整備班、里山工作班、観察会班、昼食づくり班、草刈り班。

II. 自然環境を守る政策・行政との協働

〔1〕富田林の自然を守る市民運動協議会

昨年にひきつづき、協議会の事業に積極的に取り組む。具体的には次の事業などが計画されている(富田林の自然を守る市民運動協議会2018年度活動計画より)。

1. 自然環境保全活動

(1) 里山保全活動

「里山ホリデー」と称して里山保全の作業を下記の日程で行う。作業の内容は、雑木林の下樵り、竹林整備と竹林の拡大防止、人工林の管理(間伐、枝打ち、伐倒木の皮むきなど)、休耕田・溜池の土手などの草刈り、果樹の手入れ、自然観察路(作業路)造成・整備などとする。場所は奥の谷および南原とその周辺で、時間は原則として毎回10:00~15:00頃とする。

日程:2018年4月15日(日)、5月20日(日)、7月22日(日)、2017年2月10日(日)、3月10日(日)。

このほか、自然を守る会の主催で、毎月第1金曜日に里山保全作業を実施する。

(2) 里山作業と交流会

午前は里山保全作業を行い、午後は交流会とする。

日時：12月16日（日） 10：00～15：00頃。

場所：奥の谷

(3) 中野町竹林管理

中野町の河岸段丘および段丘崖の竹林を整備し、生物多様性を向上させるとともに地域の憩いの場所として活用することを目指す。下記の日程で作業を行う。時間は原則として毎回9:30～12:00とする。

日程：2018年4月1日（日）、4月21日（土；タケノコ掘り）、5月13日（日）、6月24日（日）、7月7日（土）、8月5日（日；竹林で遊ぼう）、9月24日（月；振替休日）、10月28日（日）、11月11日（日）、11月24日（土）、12月1日（土）、12月9日（土）、2018年1月6日（日）、1月19日（土）、2月2日（土）、2月24日（日）、3月9日（土）、3月24日（日）

2. 文化的行事

(1) 米作り体験

借地している奥の谷の水田で有機栽培による米作りを行う。収穫した米は原則として各種行事に使用する。

① 田植え

日時：6月9日（土）10:00～15:00頃（予備日：10日）。

② 稲刈り

日時：10月13日（土）10:00～15:00頃（予備日14日）。

③ 稲こぎ

日時：11月3日（土）10:00～15:00頃（予備日4日）。

(2) 春の野草を食べる会

日時：4月29日（日；昭和の日）10:00～15:00頃。

場所：奥の谷。

(3) 里山クラフト

日時：11月23日（金；勤労感謝の日）10:00～15:00頃。

場所：奥の谷。

(4) どんどこもちつき

日時：1月13日（日）10:00～15:00頃。

場所：奥の谷。

3. 自然観察・調査研究・提言活動

(1) 自然観察

① 植物観察会

下記の日程で、原則として奥の谷を中心として、富田林市内の山野で行うが、他の地域で行うこともある。時間は原則として9:00～13:00頃。

日程：4月8日（日）、6月16日（土）、9月22日（土）、10月7日（日）。

② 昆虫ウォッチング

子どもを中心に、ネットによる自由採集、バナナによるベイトトラップ、ライトトラップ、夜間ルート観察などを行う。

日時:7月14日(土) 15:00~21:00頃。

場所:奥の谷。

③野鳥観察会

日時:2月17日(日) 9:00~13:00頃。

場所:彼方

④水の生き物観察会

「水の生き物池」で水生生物を採集・観察する。

日時:6月17日(日) 10:00~13:00頃

場所:奥の谷。

(2) 自然環境保全活用調査 その17

富田林市が里山倶楽部に委託して行う調査に積極的に協力する。

(3) 冊子「富田林の自然」No. 17の発行

「富田林の生き物、自然景観、保全活動などを写真で紹介」、「専門家による自然保護に関する解説」、「富田林の生物調査などの紹介」、「自然環境保全活用調査の抜粋」、「協議会参加団体の活動紹介」、「協議会の活動報告」などを内容とする冊子を3月に発行する。

(4) 生物多様性保全の取り組み

「富田林市みどりの基本計画」の改定に向けて、生物多様性保全の施策を位置づけるべく、これまで市が実施してきた調査なども活用し議論を進める。

里山保全活動などで発生する間伐材や竹材を木質バイオマスとしての活用を検討する。また、今後の自然保護活動の担い手の養成を視野に、生物多様性保全を中心とした講座の開催、地域の自然にかかわる団体などとの連携などについて検討する。

(5) 石川自然ゾーン計画・運営協議会

大阪府が設置している当協議会に1名の委員を送り、石川の自然環境のあり方について議論する。

(6) 行政への要望

「要求とまちづくり富田林実行委員会」に加入し、市内の各種市民団体と協力して自然環境保全に関する要望活動を行なう。

「富田林まちづくり研究会」が発行を予定している政策提言の冊子に自然保護に関する政策を掲載する。

Ⅲ. NICE（日本国際ワークキャンプセンター）との共催事業

(1) 国際ワークキャンプ大阪富田林 2018

富田林の自然を守る市民運動協議会の協力のもと、NICE と共催で取り組む。今年度は8月30日(木)~9月13日(木)の予定。

(2) NICE週末キャンプ（プレキャンプ、秋・春合宿を含む）

月1回の週末キャンプを下記の日程で取り組む。

4月7日~8日、5月19日~20日、5月26日~28日（香港国際週末）、6月2日~3日、7月21日~22日、10月20日~21日、11月17日~18日、12月15日~16日、1月12日~13日、2月16日~17日、3月16日~17日。

Ⅳ. 果樹園・水田・畑などの栽培・管理

(1) 果樹の栽培

南原栗園、果樹の丘、ミカン園の草刈り、施肥などの管理を行う。南原については昨年

度発足した自然農グループ(ナンバルガンバル)の協力のもと実施する。

(2) 稲作および野菜の栽培

稲作については田植え、稲刈り、稲こぎは協議会の行事とする。畑についてはシニア自然カレッジ里山班などと協力して実施する。収穫物は各種行事で使用する。

V. 地域との協働

引き続き水利組合、NICE、初芝富田林校と協働で溜池の土手・水路の脇などの草刈りを実施する（5月21日）。

VI. 外部団体からの依頼・相談・協力など

(1) 公益社団法人大阪自然環境保全協会

保全協会の提携団体として登録し協力して活動する。「自然環境市民大学」16期の講座（「地域の保全活動」、「企画・運営」）および「インストラクター養成講座」（「里山を歩こう」）を受け入れる。

(2) NPO 法人大阪シニア自然カレッジ

「竹の除伐・竹林整備」、「人工林の間伐など」、「七草摘みと七草粥」の講座を受け入れる。また、当カレッジの「里山グループ」と協働する。

(3) 富田林市市民公益活動支援センター

当支援センターに登録し、市内のNPOなどとの連携を図る。

(4) その他

そのほか各種の依頼・相談は可能なかぎり受け入れる。

VII. 自然環境調査

- (1) 富田林市の「自然環境活用調査」を協議会に協力して実施する。
- (2) 環境省「モニタリングサイト 1000 里地調査」（日本自然保護協会が実施）の植物およびチョウの調査を引き続き実施する。
- (3) 奥の谷の植物、昆虫、水生生物、その他の動植物の生息状況調査を実施する。
- (4) 都市公園自然調査研究会（大阪自然環境保全協）が実施する、錦織公園の調査研究に協力する。

VIII. 施設・設備の整備

必要に応じて「みかん小屋」とその周辺設備などの改修など施設の整備を行なう。

IX. その他

(1) 30 周年記念事業

富田林の自然を守る会は 2019 年 6 月に設立 30 周年を迎える。記念事業を行う方向で準備を進める。

(2) 里山からの生産物（薪、間伐材、竹炭など）の有効利用をすすめる。。

X. 会議

世話人会を原則として月 1 回（毎月第一木曜の午後 7 時～9 時）開催する。世話人会には世話人でなくとも会員であればだれでも出席し意見を述べるができるものとする。

年一回、原則として 6 月に総会を開催する。

第5号議案 2018年度 予算案

1.一般会計

収入の部

項目	予算額	前年度決算額	備考
繰越金	0	50,943	
会費	90,000	97,000	
行事参加費	6,000	0	協議会の行事を除く行事
寄付	10,000	7,800	製材した用材、竹炭、薪等による寄付
雑収入	40,000	36,083	飲料収入・利子等
自然保護特別会計より	60,000	75,505	
合計	206,000	267,331	

支出の部

項目	予算額	前年度決算額	備考
行事費	40,000	43,751	協議会の行事を除く行事
通信郵送費	10,000	8,856	総会案内など
消耗品費	20,000	15,289	
ワークキャンプ費	110,000	119,435	
協賛金及び寄付	20,000	15,000	
予備費	6,000	65,000	
合計	206,000	267,331	

2.「コメリ緑資金」助成金特別会計

2018年度は「コメリ緑資金」助成金7万円を受けることが決定しているので、特別会計として道具類を購入する予定である。

3.国際ワークキャンプ特別会計

「国際ワークキャンプ大阪富田林2018」の実施が予定されており、例年通り、特別会計をおく。

4.自然保護特別会計

講座、講演等の謝礼金をもとに「自然保護特別会計」を置いており、昨年度からの繰越金が1092165円となっている。2018年度も例年通り特別会計をおく。

第6号議案 2018年度役員(案)

代 表 会 計 会計幹事 世話人	田淵武夫 上角敦彦 市川悦久 伊佐知子、石垣和美、市原二郎、奥村 勉、笠原英俊、金子芳正、岸本重男、 五箇 哲、瀬戸照行、塚原知行、三嶋富士夫、見村匡人、楠本孝一
---------------------------	---

富田林の自然を守る会会則

(名称)

第1条 当会は「富田林の自然を守る会」と称する。

(目的)

第2条 当会は次のことを目的とする。

- ①身近な自然に親しみ、自然を愛する心をやしなう。
- ②富田林の自然を守り、住みよいまちづくりをすすめる。

第3条 当会は前条の目的を達成するために次の活動を行う。

- ①自然観察会や調査活動を行う。
- ②講演会などを開き、自然保護について学習する。
- ③富田林市内の里山保全の活動を行う。
- ④機関誌「富田林の自然を守る会だより」を発行する。
- ⑤その他目的達成に必要な活動を行う。

(構成)

第4条 当会は第2条および第3条に賛同する個人および団体で構成する。

(財政)

第5条 当会の財政は、会費、行事参加費、寄付金および助成金等をもって充てる。

第6条 個人会員の会費は年間1口1,000円、団体会員の会費は年間1口2,000円とする。

第7条 助成金等の財源を得て取り組む事業については、特別会計を置く。

第8条 当会の会計年度は4月から翌年の3月までとする。

(役員)

第9条 当会に次の役員を置く。

代 表 1名
会 計 1名
会計監事 1名
世話人 若干名

上記役員の外に顧問を置くことができる。

第10条 役員の任期は1年とし、役員は総会で決定する。

(会議)

第11条 定期総会を年1回開催し、事業計画、予算、役員その他会の運営に必要な事項を審議する。総会は必要に応じ臨時に開催することができる。

第12条 世話人会は原則として毎月1回開催し、具体的な活動計画などについて審議する。

(事務局)

第13条 当会は事務局を代表宅に置く。

(残余財産の処置)

第14条 当会が解散（合併又は破産による解散を除く。）したときに残存する財産は、特定非営利活動促進法11条3項に掲げるもののうち総会において議決したものに譲渡する。

附則

①会の役員は次の会員とする。

代 表 _____
会 計 _____
会計監事 _____
世話人 _____

②この規約は2008年6月13日から適用する。

③2009年6月12日一部改正。

④2012年6月1日一部改正（第14条）。